

埋蔵文化財課年報 〈19〉

平成26年度



公益財団法人松江市スポーツ振興財団

表紙写真：松江城下町遺跡（南田町104-3外）検出の堀（障子堀）跡。

目 次

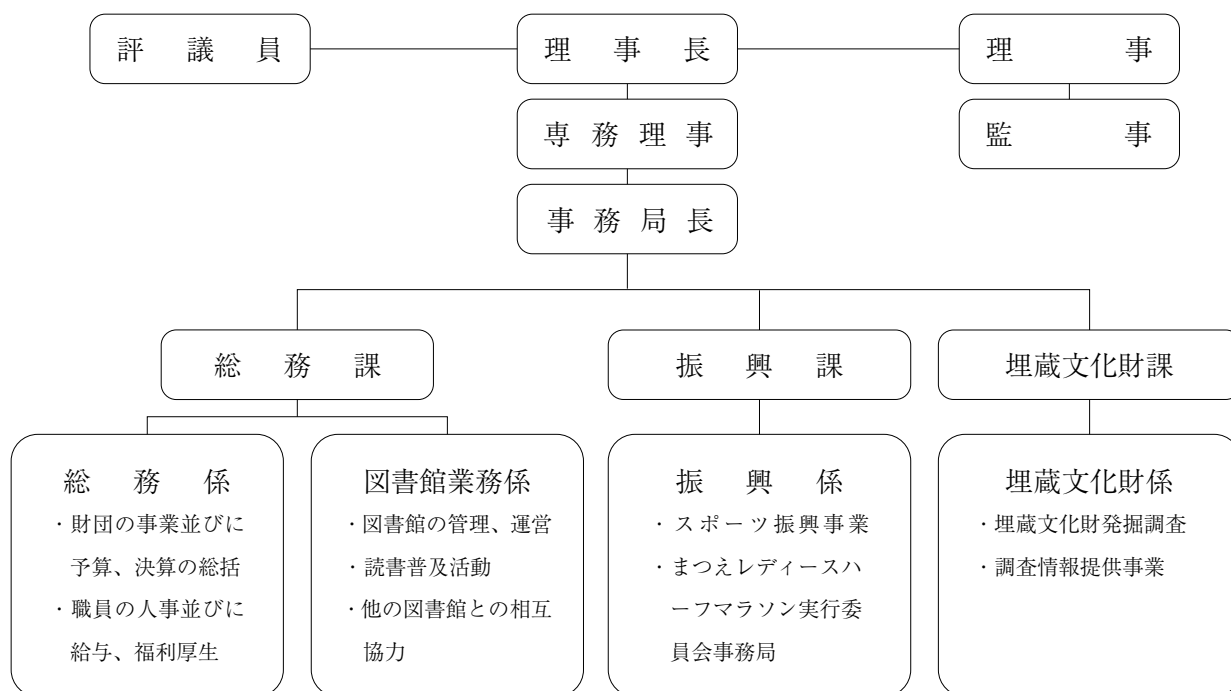
第1章 公益財団法人松江市スポーツ振興財団の沿革と組織	1
第2章 平成26年度事業の概要	3
森屋敷遺跡	5
長廻遺跡	6
茶山遺跡	7
大庭小原遺跡	8
北浦松ノ木遺跡	9
廻り遺跡	10
松江城下町遺跡（南田町104-3外）	11
松江城下町遺跡（南田町134-1外）東区	12
松江城下町遺跡（南田町132外）遺跡その2	13
松江城下町遺跡（工事立会）	15
第3章 平成25年度以前の調査	16



松江市位置図

第1章 公益財団法人松江市スポーツ振興財団の沿革と組織

- ◇ 設 立 昭和51年（1976年）4月1日
財団法人松江市教育文化振興事業団が設立される。
- ◇ 沿 革 平成25年（2013年）4月1日
公益財団法人松江市スポーツ振興財団に移行。
- ◇ 所在地 松江市学園南1丁目21番1号
- ◇ 目 的 この法人は、教育・スポーツ・文化の振興に関する事業を行い、もって市政の発展と市民の福祉向上に寄与することを目的とする。
- ◇ 事 業
 - (1) スポーツをとおして市民の健康な心とからだをつくり、生涯スポーツの普及・振興を目的とする事業。
 - (2) すぐれた芸術文化や文化情報に接する機会の提供と市民に新しい芸術文化の創造と活動の拠点とし、文化活動の普及に関する事業。
 - (3) 多様化する市民の学習ニーズや図書館サービスへの対応を図り、市民に親しまれる文化の広場としての役割を高めることで、読書普及活動の推進に関する事業。
 - (4) 埋蔵文化財の適切な保護及び活用のため、発掘調査・研究・出土品の収集・整理及び調査結果の情報提供を行う事業。
 - (5) 児童及び青少年の健全な育成を目的とする事業。
 - (6) 教育・文化・スポーツ等に関する施設の管理運営に関する事業。
 - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業。
- ◇ 組 織 （平成27年4月1日現在）



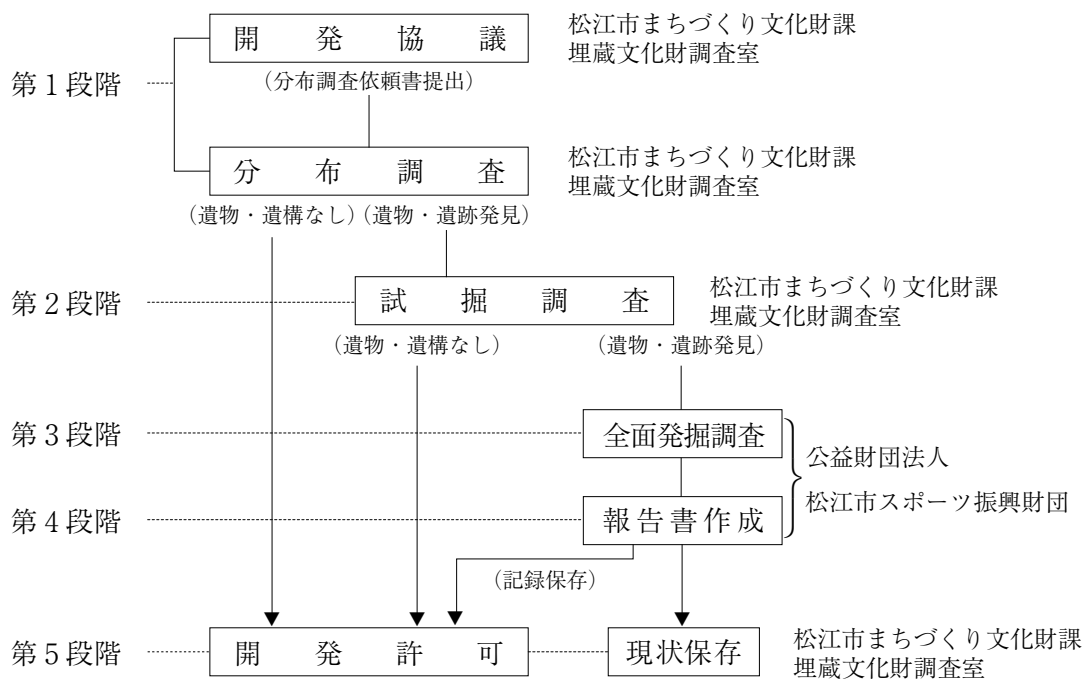
◇ 埋蔵文化財課

- ・設 立 平成5年7月1日
- ・所在地 〒690-0401 島根県松江市島根町加賀1263-1
- ・T E L 0852-85-9210
- ・F A X 0852-85-3611
- ・業 務 1) 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
2) 埋蔵文化財課の庶務経理（予算及び決算を含む）に関すること。

◇ 平成26年度 職員体制（平成27年3月31日現在）

理 事 長 清水伸夫
 常 務 理 事 松浦克司
 事 務 局 長 原 成美
 埋蔵文化財課長 三島秀幸
 調 査 係 長 古藤博昭
 主 任 江川幸子 落合昭久
 嘱 託 職 員（調 査 員） 小山泰生 徳永桃代 秦 愛子 廣濱貴子
 嘱 託 職 員（調 査 補 助 員） 宇津直樹 門脇祐介 北島和子 黒田裕司 園山 薫
 原 英誉 渡邊真二
 嘱 託 職 員（事 務） 後藤哲男 江角由巳

◇ 松江市埋蔵文化財業務フローチャート



第2章 平成26年度事業の概要

公益財団法人松江市スポーツ振興財団埋蔵文化財課では、平成26年度において7班体制をとり、9遺跡の発掘調査と、工事立会調査、発掘調査報告書の作成を行った。事業の概要は以下のとおりである。

1. 発掘調査

松江市の宍道複合施設整備事業に伴う**森屋敷遺跡**発掘調査では、弥生時代中期～近世の遺構を検出したほか、近代の製糸工場に伴う遺構が見つかった。**長廻遺跡**発掘調査では、縄文時代の落とし穴と推測される土坑のほか、古墳時代の土器埋納坑が見つかった。**茶山遺跡**発掘調査では、2基の前期古墳と時期不明の土坑群を調査した。このうち、茶山古墳群1号墳の主体部からは小型の袋状鉄斧とヤリガンナ各1点が出土した。小原団地造成工事に伴う**大庭小原遺跡**発掘調査では、弥生時代の貯蔵穴と推定される大型土坑4基、古墳時代の竪穴建物跡1棟のほか、弥生時代から近世にかけての遺物が出土した。**北浦松ノ木遺跡**発掘調査では、縄文中期後葉～後期初頭の土器のほか、石皿等の石製品が多数出土した。また、獣骨や魚骨も良好な状態で出土しており、当時の人々の食生活が伺われる資料が得られた。**廻り遺跡**発掘調査では、縄文時代後期前葉の建物跡のほか、古墳時代の建物跡を検出した。

城山北公園線都市計画街路事業用地内で確認された松江城下町遺跡の3遺跡について、本調査を実施した。**松江城下町遺跡（南田町132外）**では、堀尾期^註より始まる6面の遺構面を確認した。鍛冶炉跡や畠地を検出し、江戸時代における屋敷地の変遷が分かる調査となった。**松江城下町遺跡（南田町134-1外）**では、堀尾期・京極期にあたる畠跡と松平期の家老の与力（家臣）屋敷を検出した。**松江城下町遺跡（南田町104-3外）**では、江戸時代の屋敷地跡の一部と障子堀と呼ばれる堀施設が見つかった。江戸時代の障子堀の検出例は全国的に見ても珍しく、貴重な調査事例となった。

2. 工事立会調査

城山北公園線都市計画街路事業用地内の松江城下町遺跡が確認された箇所、全面調査が行えない場所については、工事立会調査を行った。調査の結果、石組水路や石列、畠の畝等を検出した。

3. 報告書作成

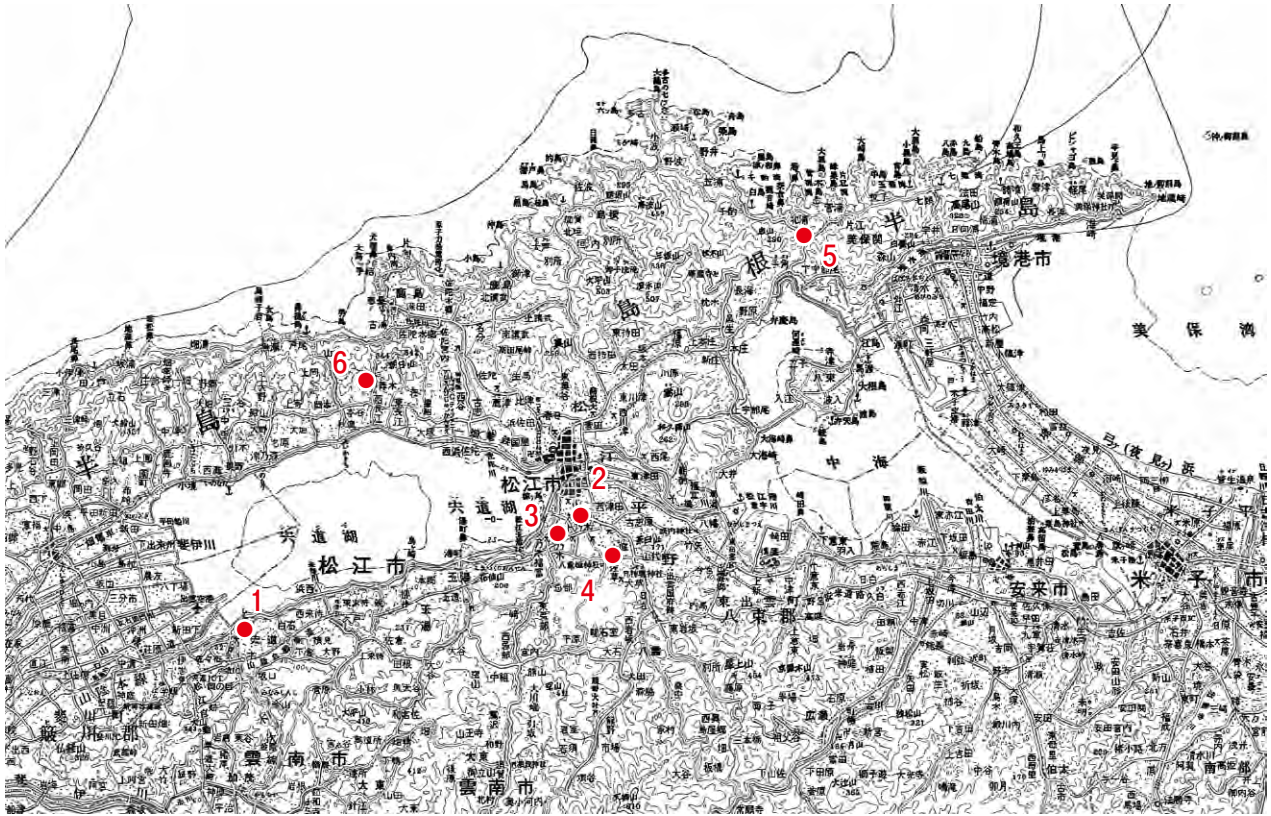
城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査の成果の一部について報告書作成を行った。このほか、大庭小原遺跡、茶山遺跡、長廻遺跡、森屋敷遺跡、松江城下町遺跡（母衣町68）の発掘調査成果について報告書作成を行った。また、平成23年より続いた史跡出雲国分寺跡発掘調査の報告書作成作業が完了した。

註 松江藩主の時期区分

堀尾期：堀尾吉晴が松江城築城・城下町建設を開始したとされる1607年から断絶する1633年までの期間。

京極期：堀尾氏の後、京極忠高^{ただたか}が藩主となった期間。1634～1637年の3年間。

松平期：京極氏の後、松平直政^{なおまさ}が1638年に松江藩主となり1871年まで続いた。



1. 森屋敷遺跡
2. 長廻遺跡
3. 茶山遺跡
4. 大庭小原遺跡
5. 北浦松ノ木遺跡
6. 廻り遺跡
7. 松江城下町遺跡
(南田町104-3外)
8. 松江城下町遺跡
(南田町134-1外)
9. 松江城下町遺跡
(南田町132外)
10. 松江城下町遺跡
(工事立会)



平成26年度 調査地位置図

もり や し き い せ き
森 屋 敷 遺 跡

1. 所在地 松江市宍道町宍道853番地 3
2. 調査面積 503㎡
3. 調査期間 平成26年 4月14日～7月31日
4. 調査原因 複合施設建設事業
5. 遺跡の種類 散布地
6. 遺跡の年代 弥生時代～近世（近代）
7. 調査の概要



調査地位置図

調査地は、松江市宍道町にあり、近世に建立された氷川神社が所在する小丘陵の南裾部に位置する。

同地では松江市により「宍道複合施設」の建設が計画されたことにより試掘調査を実施。弥生時代から中世にかけての遺物包含層を検出したため、調査を行った。

調査では、弥生時代中期、古墳時代～近世の遺構と近代の製糸工場に伴う遺構が検出された。

古墳時代の土坑（SK09）からは胴部下半に円形の穿孔が確認できる古墳時代後期前半の甕のほか、甕の口縁部、甌の把手も出土しており、土坑を埋める際に何らかの祭祀儀礼が行われたことを窺わせるものであった。

中世においては、掘立柱建物跡1棟（SB01）のほか、井戸1基（SE02）が検出された。掘立柱建物跡は3間（約6m）×2間（約4m）以上の規模もち、建物を構成する柱穴も大型であることから居館の母屋の一部である可能性が考えられた。井戸については、廃絶時に1個の大石を井戸内に埋めるといふ、畿内で見られる埋井法と類似する形跡が見られた。当時期の遺物としては12世紀代の初期龍泉窯あるいは同安系の中国青磁碗や李氏朝鮮陶器などの輸入品が出土しているほか、越前焼の甕や滑石製石鍋なども出土している。これらの遺物は宍道湖及び日本海を舞台とした広域的交易圏における水運の発展が窺え、居館の存在とも相まって中世の宍道における繁栄ぶりが垣間見えた調査となった。

（川西 学）



中世の井戸（SE02）（東から）



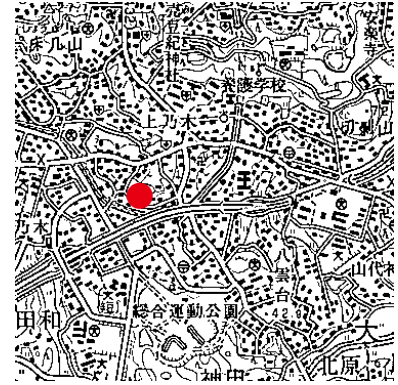
古墳時代の土坑（SK09）（東から）



SK09土坑出土遺物

なが さこ い せき 長 廻 遺 跡

1. 所在地 松江市上乃木町四丁目2598-1外
2. 調査面積 251.1㎡
3. 調査期間 平成26年4月14日～5月15日
4. 調査原因 宅地開発事業
5. 遺跡の種類 散布地・集落跡
6. 遺跡の年代 縄文時代
7. 調査の概要



調査地位置図

長廻遺跡はJR松江駅の南約2.2km、低丘陵の南向き緩斜面にあり、落とし穴状土坑と時期と性格不明の土坑、ピット群を検出した。

落とし穴状土坑は遺物を伴わないが、縄文時代の落とし穴と考えられるもので、底部中央に小坑のあるもの3基、小坑の無いもの2基の合計5基を検出した。縄文時代には狩猟の場として利用されていたようである。

ピット群は埋土から出土した土器より、古墳時代中期のものと判断された。ピット断面には柱の痕跡をとどめるものがあり、等高線に沿って並ぶピット列を確認したが、掘立柱建物跡を完全に復元することはできなかった。しかし、ピットの大きさや間隔が当時の平均的な掘立柱建物跡に近いことから、掘立柱建物跡の一部が残存している可能性が高く、集落跡の一部と推定される。また、ピット群の中には土器埋納坑1基もあり、口縁部を欠損した小型丸底壺が甕胴部の破片で蓋をして納められていた。小型丸底壺の中には何も残っていなかったが、トチの種子が坑内から出土した。

(江川幸子)



土器埋納坑検出状況

ちや やま い せき 茶 山 遺 跡

1. 所在地 松江市浜乃木町四丁目896外
2. 調査面積 588㎡
3. 調査期間 平成26年6月5日～8月4日
4. 調査原因 宅地開発事業
5. 遺跡の種類 古墳群
6. 遺跡の年代 古墳時代
7. 調査の概要

茶山遺跡は宍道湖東岸の丘陵上にある。

丘陵の北側斜面では時期、性格ともに不明の土坑状遺構を多数検出し、南側尾根上では東西にならぶ2基の前期古墳、茶山古墳群を検出した。

茶山古墳群は東側が1号墳で、東西9m、南北8mの方墳である。主体部は1つで、墳丘中央部の二段掘り墓壇に船底状の刳抜木棺がおさめられ、頭位側の小口付近には石材が使用されていた。副葬品としては小型の袋状鉄斧、故意に曲げられたヤリガンナ各1点が出土した。

西側は2号墳で、東西9m、南北8mの方墳である。主体部は墳丘上に2つ、周溝内に1つが配されていた。墳丘上の1つは二段掘り墓壇で、粘土を使用した組み合わせ箱式木棺がおさめられていたが、副葬品は出土していない。もう1つは小型の素掘り墓壇で、棺の痕跡は見られなかったが、鉄製品の破片2点が出土した。周溝内の墓壇は素掘りで箱式木棺がおさめられていたが、副葬品は出土していない。

なお、調査区から北へ約50mの地点には一辺20m程度の方墳、茶山3号墳があり、主体部棺床からは大量の水銀朱が出土した。茶山古墳群の盟主墳であったと推察される。

(江川幸子)



調査地位位置図



茶山古墳群 (左：1号墳、右：2号墳)

おおばこばらいせき
大庭小原遺跡

1. 所在地 松江市大庭町1098番地外
2. 調査面積 324.21㎡
3. 調査期間 平成26年6月11日～7月31日
4. 調査原因 宅地開発事業
5. 遺跡の種類 集落跡
6. 遺跡の年代 弥生時代～近世
7. 調査の概要



調査位置図

調査地は、南から北へ向かって突き出た標高20mの低丘陵の縁部に所在する。調査地の北には水田域が広がり、さらに北へ約200mの場所には馬橋川が北東へ向けて流れている。

調査の結果、竪穴建物跡1棟、掘立柱建物跡2棟、溝6条の他、弥生時代の食料貯蔵穴と考えられる大型土坑4基を検出した。

貯蔵穴とした大型土坑は、時期を示す出土遺物が無いものの、遺構断面が袋状となり、周辺の調査例でも同様な遺構を検出していることから弥生時代の貯蔵穴と判断した。大きさは0.8～3.5mでいびつな楕円形であり、深さは深いもので約1mあった。

竪穴建物跡は、北側が調査区外に広がるため、全容は明らかにできなかったが、平面形が隅丸方形であり、1辺は約5.8mである。建物跡南側から複合口縁の土師器の甕や低脚坏が出土しており、遺物から古墳時代前期の遺構と判断した。

掘立柱建物跡は古墳時代のものが1棟、近世のものが1棟見ついている。古墳時代の掘立柱建物は桁行3間、梁間1間以上、近世のものは桁行4間、梁間1間以上となり、いずれも調査区外に広がる可能性があった。

このほか、溝状遺構から弥生時代中期の土器が出土し、これが当遺跡における最も古い時代の遺物である。

本遺跡が存在する丘陵上にはB16遺跡・砂口遺跡のほか、立会調査で弥生～古墳時代の遺構がいくつか見ついている。今回の調査では丘陵上に広がる集落の一端が明らかになったほか、弥生時代から近世へかけて連綿と続く集落の様相を解明する上でも有意義な調査となったと言える。

(川西 学)



竪穴住居址 (東から)



大型土坑 (貯蔵穴) 土層断面 (南東から)

きたうらまつ きいせき
北浦松ノ木遺跡

1. 所在地 松江市美保関町北浦622番地 2
2. 調査面積 238.5㎡
3. 調査期間 平成26年 8月 8日～平成26年 9月26日
4. 調査原因 松江鹿島美保関線（北浦工区）防災安全交付金（交通安全）工事
5. 遺跡の種別 散布地
6. 遺跡の年代 縄文時代
7. 調査の概要



調査地位置図

本遺跡は、島根半島北岸、松江市美保関町北浦に所在し、北側約500mに日本海が存在する。調査区の北西側と東側を流れる川が合流する地点に位置し、現況は田と畑地である。

今回の調査では土坑1基、自然流路、柱穴を検出している。土坑は調査時に一部を削平してしまい全容は不明であるが、現状で40cm×23cm、深さ15cmを測る。土坑の底面や壁面からは樹皮が検出され、そのなかから人骨が出土している。土坑の性格は不明であるが興味深い資料である。

自然流路は調査範囲が限られていることから部分的な調査であり、南西側から北東側に流れる流路と思われる。砂礫層や有機物を多く含む土層が堆積し、土層内から多くの縄文土器や石製品、獣や魚等の骨が出土している。土器は中期後葉から後期初頭に限られ、当該期に埋没したようである。石製品は鏃、磨石、石皿、骨は猪や鹿、マグロなどである。一部埋土上面に土器が多くみられる面があり、火処も確認されていることから機能面の可能性が考えられる。

今回の調査で縄文時代の遺跡や遺物が確認されたことは、縄文の遺跡が少ない島根半島北岸において有意義な資料となった。島根半島北岸で縄文時代の遺跡として有名なのは、出雲市の猪目洞窟遺跡だけであり、サルガ鼻洞窟遺跡、権現山洞窟遺跡などその大半は島根半島南岸に所在している。今後の調査成果の蓄積によって、島根半島における縄文時代の様相が明らかになることを期待したい。

(廣濱貴子)



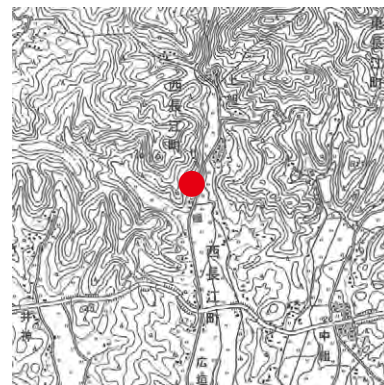
動物遺存体



縄文時代中期末の土器

めぐり遺跡

1. 所在地 松江市西長江町477-2、468
2. 調査面積 246.0㎡（1区127.6㎡・2区118.4㎡）
3. 調査期間 平成26年11月26日～平成27年1月23日
4. 調査原因 市道古浦西長江線道路整備事業
5. 遺跡の種別 集落跡
6. 遺跡の年代 縄文時代～古墳時代
7. 調査の概要



調査地位置図

廻り遺跡は島根半島、北山山系から南側に派生する2つの丘陵の間、谷部に位置する。

調査区は2枚の水田からなり、北側の水田を1区、南側の水田を2区として調査を行った。

1区は東西4.5m、南北31mの調査区で、掘立柱建物跡2棟、溝、土坑、柱穴を検出している。掘立柱建物跡2棟は重複し、出土遺物から1棟は古墳時代初頭、もう1棟については出土した遺物から弥生時代終末頃と考えられるが、明確な時期は判然としない。溝や土坑、柱穴、基盤層直上から縄文土器、弥生土器、土師器が出土している。

2区は東西3.6～5m、南北32.5mの調査区で、竪穴建物跡1棟、土坑群、柱穴を検出している。竪穴建物跡は、検出面から柱穴4個、南東側壁面から1個の柱穴を検出し、調査区外へ続いている。建物の平面形は、柱穴の位置から円形と推測され、復元すると直径約5mとなる。柱穴内からは縄文時代後期前葉の土器が出土し、当該期の建物と考えられる。他に、調査区中央から縄文時代後期前葉の土器を含む土坑群が確認された。この土坑群は楕円形状に並び、縄文時代の大型建物の可能性が考えられる。

廻り遺跡の調査では、縄文時代から古墳時代の建物跡や土坑等が検出され、特に縄文時代後期の竪穴建物跡や、土器が確認されたことは注目される。古墳や山城の遺跡が多く、縄文時代の調査例が少ない当地域において、このような調査成果が得られたことは有意義であり、今後さらに資料の蓄積が進み、西長江周辺の様相が明らかになることを期待したい。

(廣濱貴子)



1区完掘状況（南西から）

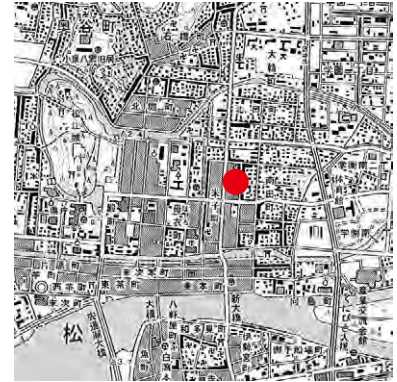


2区完掘状況（南西から）

まつえじょう かまちいせき みなみたまち ほか
松江城下町遺跡 (南田町104-3外)

1. 所在地 松江市南田町104-3外
2. 調査面積 159.5㎡
3. 調査期間 平成26年8月6日～10月30日
4. 調査原因 城山北公園線都市計画街路事業
5. 遺跡の種別 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 調査の概要

調査地は、松江城本丸から東に約800m離れた大手前通りの北側に位置する。



調査地位置図

江戸時代初頭の堀尾期（1600～1633年）の絵図では、500石の外鉄砲20人を拝領していた「畑十太夫」の名前が記載され、屋敷地の東側には南北に長い堀が描かれている。その次の京極期（1634～1637年）の絵図では、人名の記載は認められず、堀も描かれていない。松平期（1638～1871年）の絵図は複数あり、当初は人名の記載はないものの、その後の絵図では「松本」家が存在したことが分かっている。また、松平期絵図では、再び堀が描かれている。この堀は暗渠として現在も残っている。

調査では、絵図に描かれたとおり屋敷地跡と堀を検出することができた。検出した堀の底面には、障壁が設けられており、いわゆる障子堀と呼ばれる堀施設であることが判明した。江戸時代の障子堀の検出例は、全国的にも珍しく、中四国地方で初めての発見となった。

屋敷地の東端ということもあり、屋敷の本体を同時に検出することはできなかったが、障子堀が一度埋め戻され、再び堀が掘削される過程を、屋敷地の変遷とともに追うことができ、松江城下町遺跡の屋敷地と堀の変遷を知る貴重な成果を得ることができた。

(徳永桃代)



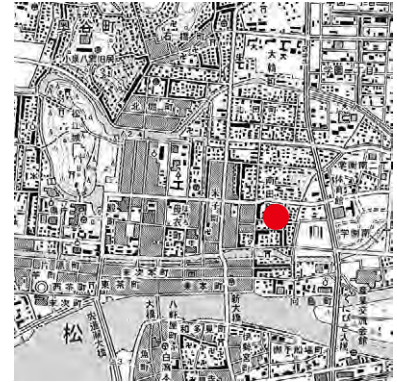
検出した障子堀（人がいる場所が障壁間の土坑）



障子堀の中に廃棄された漆椀

まつ え じょう か ま ち い せ き み な み た ま ち ほ か ひ が し く
松 江 城 下 町 遺 跡 (南 田 町 1 3 4 - 1 外) 東 区

1. 所在地 松江市南田町134-1外
2. 調査面積 480.23㎡ (東区: 218.15㎡)
3. 調査期間 平成26年4月1日～平成26年7月8日 (東区)
4. 調査原因 城山北公園線都市計画街路事業
5. 遺跡の種別 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 調査の概要



調査地位置図

調査地は、松江城本丸から東に約970m離れた場所に位置する。調査の都合により、調査区を西区と東区に分けて調査を行うことになった。平成25年度は西区の調査を行い、平成26年度は東区の調査を行った。

江戸時代の松江城下町絵図や文献資料から調査地が、松平期(1638～1871年)を通して松江藩家老「大橋茂右衛門」の与力(家臣)であった「大橋伊左衛門」の屋敷地にあたるのが分かっている。

堀尾期(1607～1633年)、京極期(1634～1637年)の城下町絵図では、地割を示す線はあるものの土地の管理者を表すような人名の記載はない。

調査では西区と対応する6面の遺構面を確認した。第4遺構面では、堀尾期、京極期にあたる畠跡を良好な状態で検出することができた。上層の遺構面では、近代以降の攪乱のため、西区よりも状態は良好ではなかったものの、松平期の礎石建物を伴う与力屋敷跡を検出することができた。西区の礎石建物跡とつながるもので、当時の与力屋敷の規模を知る貴重な成果を得ることができた。

(徳永桃代)



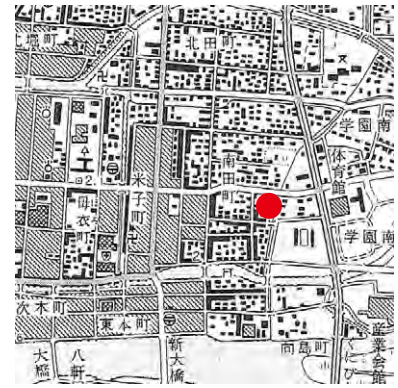
松平期の与力屋敷跡



検出された畠跡

まつえじょうかまちいせき みなみたまち ほかいせき
松江城下町遺跡（南田町132外）遺跡その2

1. 所在地 松江市南田町133、134
2. 調査面積 2区170.2㎡、3区183.9㎡
3. 調査期間 平成26年4月1日～平成26年7月11日
4. 調査原因 城山北公園線都市計画街路事業
5. 遺跡の種別 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 調査の概要



調査地位置図

本遺跡は、松江城から東に約1km、城山北公園線の南側に位置する。本調査地は江戸時代の絵図によれば堀尾～京極期（1643～1637年）には空地、松平期（1638～1871年）には「大橋茂右衛門」の与力の屋敷地であり、江戸時代中期の絵図では、「小崎」、「西澤」氏の、江戸時代後期の絵図では「小寄」「鈴木」氏の主名がみえる。

調査では、調査地を西から1区、2区、3区に分けて行い、遺構面6面を確認している。遺構面は旧地表面に近い堀尾期（1607～1633年）の面を第1遺構面とし、現地表面に向かって第2、第3・・・とした。前年度に1区と2区の第4～6面の調査は終了し、本年度は2区の第1～第3遺構面と3区の調査を行った。3区第6遺構面（幕末～近代）は、現代の近・現代の攪乱を受けていた。

第1遺構面では土坑を検出し、土坑内、遺構面直上から中国磁器や瀬戸・美濃、萩の皿、木製品が出土し、出土遺物から堀尾期と捉えている。

第2遺構面は、堀尾・京極期と考えられる面である。この面からは畠跡を検出し、埋籠を検出している。畠跡は本調査区東側の調査においても検出され、広範囲にわたって確認されている。土壌分析により畠地ではソバ、アズキ、綿、ゴマが栽培されていたことが明らかになっている。

第3遺構面から第5遺構面は松平期の面である。第3遺構面では掘立柱建物、鍛冶炉、屋敷境（溝）、柵が確認されている。鍛冶炉は、鳥状整地後、建物建築前に釘などの鉄製品を現地にて調達するために置かれたものと考えられる。この面は、出土遺物から松平氏が統治を開始した直前あるいは直後の段階と想定される。

第4遺構面からは、礎石建物、屋敷境溝などが検出され、礎石建物は南北方向を主軸とする5間以上×7間以上の建物である。出土遺物から松平期前半～中頃（1650～1700年代）を想定している。

第5遺構面においても礎石建物を検出し、第4遺構面の建物が建替えまたは改築されたものと思われる。他に屋敷境の石垣、柵、土坑、埋甕を確認しており、この面は松平期中頃～後半（1700年代頃）と捉えている。

前年度から続く調査において、鍛冶炉や畠地の広がり確認され、新たな成果が得られた。また、松平期における屋敷境や屋敷が明らかになり、絵図に描かれている屋敷割とほぼ一致することが判明した。今後、調査成果の蓄積により南田町における与力屋敷の様相、変遷が明らかになれば、松江城下町における陪臣屋敷の貴重な資料となりうるであろう。

（廣濱貴子）



第3遺構面鍛冶炉
(東から)



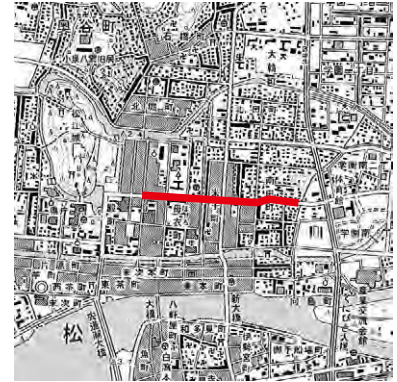
第3遺構面
掘立柱建物跡〈2区〉
(北西から)



第4遺構面
礎石建物跡〈3区〉
(北西から)

まつえじょう かまちいせき こうじりっかい
松江城下町遺跡 (工事立会)

1. 所在地 松江市殿町、母衣町、南田町
2. 調査面積
3. 調査期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日
4. 調査原因 城山北公園線都市計画街路事業
5. 遺跡の種別 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 調査の概要



調査位置図

前年度に引き続き、道路整備に伴う電線共同溝などの工事に立ち会い、61箇所を調査を行った。その結果、畠の畝、石列、石組水路等の遺構を検出した。

城山北公園線沿いの南部分、昭和橋から西へ100mの松江城下町遺跡（南田町132外）の中央部と東側の間では、石16、柱5（1つは礎板石をもつ）、集石遺構を検出した。遺物は、石の周辺より銭貨（古寛永）、計10点が出土した。また集積遺構の間から、かわらけの小皿が出土した。詳細は不明だが、松江城下町遺跡（南田町134-11外）の本調査にて礎石周辺に銭貨が散らばっていることが確認されたことから、同じような撒銭（地鎮）の可能性があると考えられる。かわらけの小皿についても同様に地鎮関係のものと思われる。（MJR401）*

MJR401より9m東側にて、上層より石列、下層より畠の畝を検出した。上層の石列は調査範囲中央部にて、東西に2列検出した。遺構の性格は不明だが、何らかの石組遺構と考えられる。下層の畠の畝は、南北方向に向き、やや東に傾く。長さ3.29m～3.4m、幅1.2m～1.4m。調査区中央で途切れていた。遺構面の高さは標高0.26m。本調査を実施した松江城下町遺跡（南田町132外）の第2遺構面（標高0.20m～0.30m）で検出した畠の畝（堀尾～京極期）と一連のものと思われる。（MJR402）*

※「MJR…」は立会調査の地点番号
（黒田裕司）



MJR401 銭貨出土状況



MJR402 石列検出状況



MJR402 畠の畝検出状況

第3章 平成25年度以前の調査

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H5	釜代1号古墳ほか	西浜佐陀町	粘土槨を伴う長大な割竹型木棺検出。水銀朱・鏡・玉類出土。	1994刊
H5	菅沢谷横穴群	乃白町	横穴墓12基を検出。	1994刊
H5	向遺跡	国屋町	奈良～平安期の集落跡検出。	1994刊
H5	論田4号墳	西津田町	(課設立以前の報告書作成) 古墳時代後期円墳と横穴墓群の調査成果。	1994刊
H5	柴尾遺跡	上東川津町	前期古墳と、縄文時代後期の黒曜石を中心とする石器生産遺跡を確認。	1994刊
H5	角森遺跡	八幡町	弥生後期～古墳時代にかけての遺物包含地。	1994刊
H5	敷居谷古墳群	東生馬町	5世紀の方墳を含む計3基の方墳を検出。後世の祭祀関連遺物が出土。	1994刊
H5	出雲国分寺跡	竹矢町	僧房の西方を調査。瓦溜り検出。	1995刊
H5	深田遺跡	大庭町	奈良～平安期の道路状遺構と円形土坑列を検出。	
H5	岩汐峠遺跡ほか	大井町	礫石経塚を検出。	1999刊
H5	出雲国府跡	大草町	直接国府に関連する遺構は検出されなかった。	
H5	勝負谷遺跡	大庭町	さいの神と積石塚、古代と考えられる道路状遺構を検出。	1999刊
H5	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は検出されなかった。	1999刊
H6	柴尾遺跡ほか	上東川津町	縄文時代の石器生産遺跡と前期古墳を調査。	1995刊
H6	敷居谷古墳群	東生馬町	後期初頭の方墳。主体部から太刀等が出土。	1995刊
H6	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は発見されなかった。	1999刊
H6	米坂遺跡	西尾町	古墳時代中期から後期初頭の掘立柱建物群検出。	1999刊
H6	舟津横穴群	薦津町	横穴墓2穴と近世貯蔵穴3穴を検出。	1995刊
H6	筆ノ尾横穴群	東長江町	横穴墓5基を検出。	1995刊
H6	寺の前遺跡	山代町	自然流路から古代瓦、陶製鴟尾等が出土。	1995刊
H6	黒田畦遺跡	大庭町	奈良時代の土坑内から墨書土器・製塩土器・律令様式の土器が出土。	1995刊
H6	二名留遺跡	乃木福富町	古墳時代と近世の遺物包含地。	1995刊
H6	向山1号墳	大庭町	トレンチ調査で未盗掘の石棺式石室発見。	1996刊
H7	向山古墳群	大庭町	32×20m以上の方墳。羨道から前庭にかけて馬具、玉等が出土。	1998刊
H7	遅倉横穴群	朝酌町	横穴墓5基を検出。	1999刊
H7	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物数片が出土。遺構は検出されなかった。	1999刊
H7	宮尾古墳群ほか	西川津・上東川津町	石器のほか、室町後期～安土桃山時代の五輪塔2基が出土。	1996刊
H7	袋尻遺跡群	乃白(現平成)町	堅穴住居跡7棟、土壙5基、後期古墳2基、近世墓2基等を検出。	1998刊
H7	四王寺跡	山代町	調査範囲が狭く、四王寺との関連性を判断するには至らなかった。	1996刊
H7	大久保遺跡	乃白町	焼土壙、ピットを検出。	1996刊
H7	川原後谷横穴群	川原町	横穴墓の墓道のみ調査。	1996刊
H7	寺山小田遺跡	矢田町	古墳時代中～後期の集落跡検出。2棟の建物内から玉類出土。	1996刊
H8	小無田II遺跡	山代町	山代郷南新造院の瓦を焼いた8世紀代の瓦窯跡3基を検出。	1997刊
H8	米坂遺跡	西尾町	古墳時代中期の集落跡を検出。	1999刊
H8	柴III遺跡	西川津町	弥生終末期の玉造工房跡含む堅穴式住居跡3棟等を検出。	1997刊
H8	袋尻遺跡群	平成町	古墳6基、堅穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟、土壙3基、横穴墓3穴を検出。	1998刊
H8	松江北東部遺跡	上本庄町	堅穴住居跡と掘立柱建物跡を検出。子持勾玉が出土。	1999刊
H9	大佐遺跡群	西持田町	古墳時代初頭の墳丘墓と、戦国時代の真山城塞群の一部を検出。	1999刊
H9	米坂古墳群	西尾町	古墳時代中期～後期の方墳7基と埋葬施設8基を検出。	1999刊
H9	柴尾遺跡	西尾町	遺構、遺物は検出されなかった。	1999刊
H9	松江北東部遺跡	上本庄町	中世の掘立柱建物跡2棟、井戸状遺構1基を検出。有舌尖頭器出土。	1999刊
H9	田和山遺跡群	乃白町	弥生時代前期～中期の3重の環壕を検出。銅剣形石剣などが出土。	2005刊
H10	夫手遺跡	手角町	約6000年前の漆液容器、木製の櫛が出土。	2000刊
H11	久米遺跡群	比津町	古墳時代後期～奈良時代の堅穴住居跡1棟、掘立柱建物跡11棟を検出。	2000刊
H11	門田遺跡	乃木福富町	弥生時代中期の自然流路、溝、土壙、ピット、杭列などを検出。	2000刊

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H11	大坪遺跡	山代町・大草町	「恐々謹解・・・」と記された木簡が出土。	2001刊
H10 ～ H11	田和山遺跡群	乃白町	三重の環壕検出。濠の外側に竪穴住居跡、掘立柱建物跡を多数検出。	2005刊
H12	北小原古墳群	西浜佐陀町	石棺2基検出（内1基は現状保存）。小型仿製鏡が出土した。	2000刊
H12	田中谷遺跡Ⅲ区	法吉町	掘立柱建物跡と自然河道を検出。	2001刊
H12	雲垣遺跡	乃白町	弥生時代中期を中心とした遺物包含地。	2001刊
H12	大坪遺跡	山代町・大草町	自然流路に挟まれた微高地の存在を確認。木製品出土。	2002刊
H12	法吉遺跡	法吉町	自然流路からドングリ集積遺構を検出。縄文土器の細片や黒曜石が出土。	2002刊
H12	舎人遺跡	国屋町・黒田町	城跡に結びつく遺構は確認されなかった。近世以降の遺物が出土。	2002刊
H13	奥山古墳群	上乃木町	古墳時代中期頃の古墳6基を調査。鉄剣や鉄鏃等が出土。	2002刊
H13	大坪遺跡	山代町・大草町	自然河道を検出。古墳中期～後期の土器と木製品が出土。	2002刊
H13	荒隈城跡 (小十太郎地区)	国屋町	近世以降の古墳群を検出。幕末～近世の土器出土。	2002刊
H13	法吉遺跡	法吉町	土壙や杭列を検出。弥生～10世紀代の土器、木製品が出土。	2002刊
H13	山津窯跡	大井町	土坑、溝、旧河道などを検出。古墳～奈良時代の遺物出土。	2006刊
H13	田和山遺跡	乃白町	建物跡、土壙、小石棺、自然流水路などを検出。	2005刊
H14	石田遺跡	浜佐陀町・薦津町	弥生中期～奈良時代の竪穴住居跡や墓壙、水溜遺構等を検出。	2004刊
H14	犬丸遺跡	上大野町	溝2条・土坑3基を検出。	年報Ⅶ
H14	渋ヶ谷遺跡 (措松地区)	上乃木町	道路状遺構や溝状遺構、上幅6～7mの断面V字～逆台形の大溝を検出。	2005刊
H14	田和山遺跡群	乃白町	掘立柱建物、小石棺を検出。	2005刊
H14	法吉遺跡	法吉町	湿地層から、弥生～10世紀の土器片と木製品が出土。	2004刊
H14	山津遺跡	大井町	6世紀後半と8世紀前半の須恵器窯跡等を検出。鷓尾・陶棺が出土。	2006刊
H14	薦沢砦跡	法吉町	城郭遺構は検出されなかった。	2005刊
H15	菅田横穴墓群	菅田町	横穴墓22穴を検出。	2005刊
H15	渋ヶ谷遺跡 (措松地区)	大庭町	道路状遺構や溝状遺構、大溝を検出。	2006刊
H15	山津窯跡	大井町	窯壁と7世紀中～後半の須恵器が出土。	2006刊
H15	井廻古墳	上大野町	石棺の一部が残存。	年報Ⅷ
H15	宮ノ前遺跡	持田町	竪穴住居跡2棟等を検出。弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が出土。	年報Ⅷ
H15	石田遺跡	浜佐陀町・薦津町	弥生時代の加工段と古墳1基を検出した。主体部から鏡等が出土した。	2004刊
H15	荒隈城跡 (小十太郎地区)	国屋町	大規模な土木工事による山城遺構を検出。	年報Ⅶ
H16	渋ヶ谷遺跡	大庭町	古墳時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡を検出。焼失住居も確認。	2006刊
H16	渋ヶ谷1号窯	大庭町	6世紀初頭の須恵器窯を検出。	2006刊
H16	措松遺跡	大庭町	古代道路遺構と考えられる遺構を検出。	2006刊
H16	山津遺跡	大井町	7世紀代の須恵器と窯壁の塊が出土。	2006刊
H16	久傳遺跡	比津町	古代時代を中心とする掘立柱建物跡を7棟検出。	2006刊
H16	向山西遺跡	古志原	丘陵頂部付近から弥生後期初頭の竪穴住居跡2棟を検出。	2006刊
H17	鶴灘山遺跡他	鹿島町名分	弥生後期初頭の玉作工房跡を検出。	2007刊
H17	二反田遺跡	春日町	弥生時代の竪穴住居跡3棟、中近世の大型土坑を検出。	2006刊
H17	勝負奥遺跡	乃白町	弥生後期中葉の竪穴住居跡を検出。	2006刊
H17	矢の原Ⅱ遺跡	上乃木町	道路状遺構を2条検出。	年報Ⅹ
H17	山津遺跡G区	大井町	7世紀末頃を主とする須恵器片と5体の土馬が出土。	年報Ⅹ
H17	松江城下町遺跡	母衣町	松江裁判所跡で、城下町形成時の造成土を確認。	年報Ⅹ
H18	西川津遺跡C区	西川津町	大量の縄文土器・弥生土器・土師器・石器が出土。	2011刊
H18	古屋敷Ⅱ遺跡	西川津町	10～11世紀前後を主とする土師器・須恵器と若干のピットを検出。	2011刊
H18	大勝間山城跡	鹿島町名分	中世の山城跡。弥生中・後期の住居跡と運河佐陀川の揚土置場を検出。	2009刊
H18	鶴灘山遺跡他	鹿島町名分	H17年に調査が許可されなかった大勝間山城の一隅を調査。	2007刊
H18	団原Ⅱ遺跡	大庭町	近世～現代の畑や坑を確認。	

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H18	松江城下町遺跡	殿町287	家老屋敷跡の調査で、4つの遺構面を検出。	2011刊
H18	松江城下町遺跡	南田町77-1外	素掘りの大溝やウラジロ敷詰層を検出。	2012刊
H18	松江城下町遺跡	南田町52-32外	ウラジロ（シダ）を敷いた跡を検出。	2012刊
H18	松江城下町遺跡	南田町52-1外	〃	2012刊
H18	松江城下町遺跡	母衣町193-2外	石組水路を検出。	2014予
H18	松江城下町遺跡	殿町344外	柱穴列、石組、石列や竹組を伴う遺構を検出。	2013刊
H18	松江城下町遺跡	殿町345-1外	石垣と石列を検出。	2013刊
H18	田原谷遺跡	春日町	古墳時代の土壙墓の他、中・近世の建物跡を検出した。	
H18	岩汐窯跡	大井町	須恵器窯跡1基を確認した。	2009刊
H18	石の堂・新宮遺跡	岡本町	両遺跡とも土師器等の遺物を含む自然流路を検出した。	2009刊
H19	松江城下町遺跡	殿町287、279	家老屋敷跡の調査。南北に別々の屋敷跡が存在した。	2011刊
H19	松江城下町遺跡	母衣町68	武家屋敷跡の調査。	2012刊
H19	松江城下町遺跡	米子町49-3	武家屋敷跡の調査で、4つの遺構面を確認。	2014刊
H19	松江城下町遺跡	米子町40-4	町屋と思われるところを調査。礎石を確認し、大量の陶磁器類等が出土。	2014刊
H19	松江城下町遺跡	南田町	武家屋敷跡の調査。江戸時代初期の造成工事に伴うウラジロや杭を検出。	2012刊
H19	佐太前遺跡	鹿島町佐太宮内	弥生時代前期の大溝と中世の大型建物を検出。	2010刊
H19	田中谷Ⅱ遺跡	西法吉町	加工段やピットを検出。9世紀代の須恵器類が出土。	2008刊
H19	小原遺跡	八雲町東岩坂	中世の墓壙と思われる土坑を検出し、竜泉系の青磁や渡来銭が出土。	2008刊
H19	千酌条里制遺跡・中殿遺跡	美保関町千酌	条里関連の暗渠を検出。中殿遺跡から弥生後期～古墳中期の遺物が出土。	2010刊
H19	春日山古墳群・寺ノ脇遺跡	手角町町並	古墳前期～中期の古墳群。寺ノ脇遺跡は縄文時代～近世の遺物が出土。	2009刊
H19	砂口遺跡	大庭町	古墳中期の住居跡と推定される遺構を検出。弥生中期の遺物も数点出土。	
H19	大坪遺跡	大草町・山代町	弥生時代の住居跡を検出。	2008刊
H19	能登堀遺跡	穴道町穴道	古墳後期の溝状遺構を検出。中国磁器や石製硯が出土。	2009刊
H19	大勝間山城跡	鹿島町名分	弥生中・後期の住居跡、山城の曲輪、近世運河の造作遺構を検出。	2009刊
H19	西屋敷遺跡	大庭町	地山を覆う層から少量の須恵器が出土。	
H19	清水遺跡	鹿島町佐太宮内	中世の土地造成、18世紀代の掘立柱建物を検出。	
H19	石台Ⅱ遺跡	東津田	流水の堆積土層を確認。中世の土師質土器や弥生前期の遺物が出土。	2009刊
H19	乃木西廻遺跡	上乃木町	中世の祭祀遺構を検出。土坑から中国製褐四耳壺が出土した。	年報XI
H20	松江城下町遺跡	米子町47	武家屋敷の調査。ゴミ穴を検出した。	2014刊
H20	松江城下町遺跡	南田町52-7	武家屋敷の調査。ウラジロを検出した。	2012刊
H20	松江城下町遺跡	母衣町40外	武家屋敷の調査。3つの遺構面から土坑や水路、建物礎石などを検出。	2013刊
H20	松江城下町遺跡	母衣町68	H19からの継続調査。石組遺構や井戸、土坑などを検出。	2012刊
H20	松江城下町遺跡	殿町287、279	H19からの継続調査。江戸初期の建物礎石などを検出。	2011刊
H20	石台Ⅱ遺跡	東津田	H19からの継続調査。縄文土器や弥生土器などが出土。	2009刊
H20	千酌条里制遺跡・中殿遺跡・修理田遺跡	美保関町千酌	H19からの継続調査。修理田遺跡から掘立柱建物跡を検出。	2010刊
H20	寺ノ脇遺跡	手角町町並	H19からの継続調査。古墳後期の遺構面を検出。縄文～古墳の土器が出土。	2009刊
H20	松江城下町遺跡	母衣町・米子町・南田町	工事立会調査。29ヶ所で実施し、主にゴミ穴を検出。	
H20～H21	佐太前遺跡	鹿島町名分	H19からの継続調査。中近世の遺構面から大型掘立柱建物跡を検出。	2010刊
H20	戸崎遺跡	上佐陀町	弥生中期末～後期初頭の堅穴住居跡を検出。	2008刊
H20	能登堀遺跡	穴道町穴道	H19からの継続調査。遺構は検出されず、遺物包含層を確認。	2009刊
H21	出雲国分寺跡	竹矢町	伽藍域区画溝、瓦敷遺構2基、粘土採堀坑8基等を検出。	2010刊
H21	石流遺跡	法吉町	7世紀初頭の加工段、掘立柱建物跡等を検出。	2010刊
H21	来美南遺跡	山代町	遺構は検出されなかった。古代瓦が多数出土。	2009刊
H21	史跡出雲玉作跡宮ノ上地区	玉湯町	江戸時代の御茶屋建物に付随する庭園の調査。苑池に水を引く導水路を検出。	2010刊

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H21	池平山城跡	鹿島町	中世山城の調査で、郭、道路状遺構等を確認。	2009刊
H21	上講武清水遺跡	鹿島町	8世紀前後の掘立柱建物跡1棟や土坑、溝状遺構、ピット群を検出。	2011刊
H21	佐太前遺跡	鹿島町	工事立会。古代末～中世の遺構面と弥生時代後期～古墳時代初の遺構面を検出。	2010刊
H21	松江城下町遺跡	母衣町40外	遺構面を3面検出した。江戸時代初頭面で土坑、壁、溝状遺構を確認。	2013刊
H21	松江城下町遺跡	殿町344外	遺構面を4面検出。17世紀初頭の遺構面では土留工事跡を検出。	2013刊
H21	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を56ヶ所で行った。江戸時代の石組水路、ゴミ穴等を検出。	
H21	松江城下町遺跡	米子町55-5	町屋の調査。礎石や石積遺構を検出。獣骨が入った桶が出土。	2014刊
H21	松江城下町遺跡	殿町191-13外	武家地屋敷の調査で、柱穴、ゴミ穴を検出。	2013刊
H22	西後遺跡	西谷町	時期不明の掘立柱建物跡を検出。	2012刊
H22	米塚遺跡	西谷町	礫石経塚を検出。	2012刊
H22	上講武大石遺跡	鹿島町上講武	8世紀中頃～9世紀前半の集落跡を検出。	2012刊
H22	キコロジ遺跡	朝酌町	6世紀後半～9世紀の遺物が大量に出土。	2011刊
H22	石屋遺跡	東津田町	どんぐりの貯蔵穴1基を検出。	2011刊
H22	出雲国分寺跡	竹矢町	南門から中門の参道脇を調査。独立ピット（旗立痕か）1基を検出。	
H22	出雲国分寺跡	竹矢町	南門前を調査。造成土を検出。	2012刊
H22	野塚遺跡	八束町	時期不明の掘立柱建物跡を検出。	2011刊
H22	松江城下町遺跡	殿町344外	武家屋敷の調査で、7つの遺構面を検出。	2013刊
H22	松江城下町遺跡	母衣町180-28・29	外掘石垣と、それに繋がる基壇状石垣を検出。	2014刊
H22	松江城下町遺跡	南田町80-11	武家屋敷の調査で、ゴミ穴等のほか、江戸時代初期の溝を検出。	2014刊
H22	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・南田町	工事立会調査を22ヶ所で行った。素掘りの大溝を各所で検出。	
H22	松江城下町遺跡	南田町134-11外	堀尾期～京極期の畠跡を検出。松平期の掘立柱建物跡、礎石建物跡を検出。	2014刊
H23	後廻遺跡	上乃木	弥生後期から古墳時代前期にかけての堅穴住居跡、布堀り掘立柱建物跡を検出。	2011刊
H23	王子坂遺跡	上乃木	時期不明の掘立柱建物跡等を検出。縄文時代晩期から近代に至る遺物が出土。	2012刊
H23	スモト遺跡	古曾志町	時期不明の掘立柱建物跡等を検出。弥生中期後半から中近世の遺物が出土。	2011刊
H23	江分遺跡	竹矢町	弥生中期から後期末の遺構や古墳時代後期を中心とする粘土採取坑を検出。	2012刊
H23	松江城下町遺跡	母衣町68	幕末から明治時代頃の礎石建物跡を検出。	2015予
H23	松江城下町遺跡	南田町136-13外	7面の内、1～4面の調査を実施。礎石建物跡、掘立柱建物跡、屋敷境を検出。	2014刊
H23	松江城下町遺跡	殿町198-2外	江戸時代後期以降の木樋を検出。素掘りの大溝（南北溝）を検出。	2014刊
H23	松江城下町遺跡	母衣町45外	6面の遺構面を検出。植栽痕、礎石、ピット、大形の土坑、素掘りの大溝を検出。	2013刊
H23	松江城下町遺跡	母衣町180-28・29	前年度の西側（2区）を調査。礎石建物、掘立柱建物、素掘りの大溝、水田跡を検出。	2014刊
H23	松江城下町遺跡	母衣町100外	北、東で屋敷境と思われる素掘りの溝を検出。東側の溝は幅20mを測る。	2012刊
H23	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を36ヶ所で行った。石組水路、素掘りの大溝を検出。	
H24	山代沖田遺跡	山代町	中世前半以降の掘立柱建物跡、総柱建物跡を検出。	2012刊
H24	柳堀遺跡	大庭町	近世の溝、時期不明の柱穴、土坑、杭列や自然河道を検出。縄文～近世の遺物。	2014刊
H24	松江城下町遺跡	母衣町127-2、128、198-1	礎石建物跡、屋敷境石垣、廃棄土坑、掘立柱建物跡、素掘りの大溝を検出。	2013刊
H24	松江城下町遺跡	母衣町68	第3～6面の調査。第3遺構面で大量の肥前磁器、中国磁器が一括出土。	2015刊
H24	松江城下町遺跡	殿町198-2外	H23年度調査区の南側で木樋の続きを検出。その東側では竹樋を検出。	2014刊
H24	松江城下町遺跡	母衣町44外	堀、石積土坑、土坑、植栽痕、素掘り大溝を検出。	2014刊
H24	松江城下町遺跡	南田町130-6外	第3面で堀尾期、あるいは堀尾期から京極期の掘立柱建物跡を検出。	2016予
H24	松江城下町遺跡	南田町136-13外	第5～7面の調査。第5面で畠跡を、第6面で掘立柱建物跡、土坑群を検出。	2014刊
H24	松江城下町遺跡	南田町137-13外・137-10外	第2、3面で、敷葉工法を用いて造られた川土手を検出。	2014刊
H24	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	米子橋の西側橋台部下で古石垣の跡と思われる集石遺構を検出。	
H25	白畑遺跡	鹿島町	23基の近世土坑墓を検出。	2015刊

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H25	二部遺跡	古曾志町	縄文時代～古墳時代にかけての土器散布地。溝状遺構や土坑も検出。	2015刊
H25	大庭原ノ前遺跡	大庭町	奈良時代～江戸時代の掘立柱建物跡を検出。	2014刊
H25	松江城下町遺跡	南田町101-21外	江戸時代における4面の遺構面を確認。川砂を造成土として使用。	
H25	松江城下町遺跡	南田町127-17外・127-14外・130-3外	堀尾期と松平期の遺構面を確認。掘立柱建物跡を検出。	2015刊
H25	松江城下町遺跡	南田町134-1外	松平期の与力屋敷跡の下に埋納された曲物容器と鉄の玉が出土。	
H25	松江城下町遺跡	南田町132外	江戸時代における6面の遺構面を確認。旧地表面からは中国白磁が出土。	2015刊
H25	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を18ヵ所で行った。石組水路、石列、素掘りの大溝を検出。	

埋蔵文化財課年報〈19〉

2016年発行

編集・発行

公益財団法人松江市スポーツ振興財団

印刷

有限会社 高浜印刷

島根県松江市東長江町902-57